

令和2年度 能見台地域ケアプラザPDCAシート_公表用 (事業計画書、事業報告書、事業実績評価)

—総括表—

◆ 事業計画

地域の現状と今後の方向性

能見台地域ケアプラザの担当圏域は、富岡西・能見台、能見台、金沢東部、金沢中部という性格の異なる4地区にまたがっており、それぞれ特徴的な地域活動が行われているエリアである。各地区の特性に応じて活動者、団体を支援し、情報交換を行い相互につなぐ役割をケアプラザが担っている。今後も身近な地域で住民の活動立ち上げ、継続を支援し、その情報を広く地域に提供していく。

今年度の重点的な取組

新規	継続	—具体的な取組内容—
<input type="checkbox"/>	<input checked="" type="checkbox"/>	地域住民主体の活動が維持、継続できるよう運営の支援を行っていくと共に、元気づくりステーション未整備の地域に対しては、立ち上げの支援を引き続き行う。
<input type="checkbox"/>	<input checked="" type="checkbox"/>	認知症における課題のひとつである「高齢者の運転トラブル」や「免許返納」について、地域住民・関係者に周知していく。
<input type="checkbox"/>	<input checked="" type="checkbox"/>	誰もが住み慣れた地域で安心して過ごせるよう、エンディングノートその他、救急情報提供用紙、救急あんしんカードの普及・啓発に努める。
<input type="checkbox"/>	<input checked="" type="checkbox"/>	地域の集いの場や話し合いの場に積極的に参加し地域の社会資源情報を収集すると共に、活動における課題を把握し、活動の発展・継続に向けて働きかけ、地域支援・個別支援につなげていく。
<input type="checkbox"/>	<input checked="" type="checkbox"/>	様々な連絡会など、地域の方の声に常に耳を傾け五職種間での連携をとり課題ニーズを把握し、地域のすべての方が孤立することなく参加できる事業を企画実施する。

◆ 事業報告・事業実績評価

振り返り

4月に緊急事態宣言が出されケアプラザの活動は、貸館の停止、利用制限、開館時間の短縮、自主事業の中止など全般にわたり大きな制約を受けた。包括の相談・訪問はコロナ禍のもとでも継続したが、4月から8月までは前年の7割程度の件数に減少した。その反動からか、9月以降は前年を上回る件数となっている。人と人との接触が制限され、支援を必要とする人がキャッチしにくい現状だからこそ、感度を高め、介入が必要と判断したケースには迅速に訪問することに努めた。圏域が4地区連合にまたがっており、それぞれの地域特性、地域課題も異なるため、地域支えあい連絡会は地区ごとの課題を取り上げていくよう見直しをおこなった。引き続き包括と生活支援・地域活動交流の両コーディネーターとの連携を図りつつ、ケアプラザ全体として個別支援・地域支援を進めていく。

区からのコメント

コロナ禍で思うような事業展開ができない1年だったと思いますが、4つの地区連合にまたがる圏域を担当される中、継続的に地域の分析が行われており、地域の集まりに積極的に参加することで、その情報を関係機関に情報提供いただいています。
支え合い連絡会では、開催方法を見直し、各地域の課題に特化した内容を深めることで、結果これまで以上に地域の方が「我が事」として考えるきっかけや地区間の有効な情報共有につながったと思います。
個別支援では、権利擁護に関するニーズの高さや地域特有の課題を適切に見極め、寄り添った相談支援や事業展開を実施していただいています。今後も「孤立させない地域づくり」に向けて、引き続き区や関係機関と連携して取り組んでいただきますようお願いいたします。